

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立川副中学校		C：やや不十分である D：不十分である
1 前年度 評価結果の概要	生徒・保護者・教職員のアンケート数値も高く、学校関係評価者からも高評価をいただいた。 ・学力向上においては、校内研修で全職員 1 回以上の研究授業を行い、また、公開授業を行い全国各地にハイブリッドで配信した。その結果、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりへの意識を高めることができた。しかし家庭学習の支援・習慣化が課題となった。 ・働き方改革については、定時退勤促進日の設定や生徒の登校時間等の見直しを行い改善されたが、さらなる改善が必要である。 ・学校経営計画、学校評価、教職員の自己目標申告書をリンクさせることについて、教職員の意識が十分でなかった。今年度は全教職員が、学校目標の具現化のために自らの役割を認識し業務を行うことができるような学校評価にしていく必要がある。		
2 学校教育目標	We love KAWASOE！ 自他を大切にし 志をもって 主体的に学び活動する 生徒の育成		

3 本年度の重点目標	○あいさつの言葉が響く活気あふれる学校 ○生徒の主体的な学びと活動を支える学校 ○美しい学校 ○安全・安心な学校 ○保護者、地域とつながり信頼される学校 1 全教職員での協働体制と関係機関・保護者との連携により、校内研究の推進と特別支援教育の充実を図り、287人全ての生徒に学びと居場所を保障する。2 キャリア教育と校内研修をさらに充実させ、志をもって、主体的に学び活動する生徒を育成する。3 人権・同和教育、道徳教育の充実とチームでの生徒指導・教育相談体制により、自他を大切にする生徒の育成を図る。4 ふるさとに貢献する生徒を育成する。5 健やかな体の育成を図る。6 いのちを守る安全・防災教育を実践する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価					
(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●「めあて」「まめど」「振り返り」「話し合う」を意識した授業づくり定着している教師100% ●個に応じた手立てとしてICTを活用している教師70%以上 ●SDGsの視点を取り入れた授業づくりを行い、生徒の主体的な学びにつなげる教師75%以上	授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえた「書く活動」「話し合う活動」の適切な設定 ・個別最適な学習を目指し、ICTを活用した授業づくりを教科の授業や総合的な学習、学校行事などでSDGsの視点を取り入れた学習や活動を行う。	B	・振り返りが次の学習につなげている生徒の割合は71%、話し合い活動で考えを深めながら学ぶ割合は88.6%であった。 ・SDGsの視点や教科指導の中心に据えて進めていくことで、主体的な学びにつながりつつある。 ・一人1台端末を活かしながら基礎学力や活用力を高めていきたい。	A	・授業や学力向上への取組に対して、生徒は97%、保護者は86%が評価している。また「授業づくりのステップ1・2・3」を意識して授業を行っている教師は94%と、教師の自己評価はやはり高いが、30%以上の生徒がめあての提示や書き活動、話し合い活動や振り返りが効果的に行われている回答。一人1台端末の活用も理解を固る手立てにつながっていた。	A	・SDGsカードや「めあて」のカードを使用、タブレットPCの活用が充実していた。 ・生徒、保護者のアンケート調査は、高評価である。子ども達が前向きに努力している結果の表れである。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○学習意欲の向上・学習習慣の定着	○評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」のB以上が70%以上 ○家庭学習に1時間以上取り組む生徒の割合が80%以上	○単元やまとまりの中で適正な評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる ・課題の精選や頻度、習慣づけを学校全体で取り組んでいく。また家庭とも連携を図る。	B	・「主体的に学習に取り組む態度」は、全教科でB以上が70%を超えている。 ・9月実施アンケートでは、家庭学習平均時間が1時間以上と回答した割合は60.9%で、2時間以上は8.9%、30分未満が11.7%であった。校内研修では、各教科や学年、生徒会や家庭とも連携しながら家庭学習の習慣の定着を図るよう共通理解を行った。	B	・82%の教師は家庭学習支援を行っており、71%の保護者が計画的に学習に取り組んでいる回答。しかし学習平均時間が1時間未満の生徒は48%と、一人1台端末でのライブラリを活用や、生徒の理解や習慣を定着していく工夫、保護者への理解や協力体制の向上、生徒会での取り組みによる、家庭学習の習慣化や計画的、自発的なを身につけることが必要である。	B	・授業中の態度は、素晴らしい。生徒も主体的に学んでいる。 ・自学ノードはほぼ毎日できているが、他の家庭学習があと一歩であった。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケート「生命尊重」「他者への思いやり」「正義感」「郷土を愛する心」において、肯定的な回答をした生徒70%以上	・人権集会や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・川副町出身の偉人の生き方を学ぶ地域教材の作成及びふるさとを思う心」に関する道徳教育の実施 ・地域と連携した校外でのボランティア活動の実施	A	・人権集会に向けての準備に取り掛かっている。 ・教員がローテーションする形で、道徳の授業を実施した。 ・川副町出身である佐野常民が教材とした授業づくりに取り組んでいる。 ・SDGsの取り組みの一環として、地域と連携し進港の清掃活動を行い、郷土の関心をもつきっかけとなる取り組みを行った。	A	・各学年で計画的に道徳の授業を実施できた。体育大会や文化発表会などの学校行事機会に生徒会と連携して、乗込活動も行った。 ・生徒会による、各教科の授業や文化発表会が開始し、身近にある人権について、考えるきっかけをつけた。 ・地域と連携して清掃活動を行い、郷土についての関心を高めることができた。	B	・人権の視点で物事を見られることができるようになってきていることが素晴らしい。 ・SDGsの学習については、子ども達に浸透してきている。 ・地域教材の作成及び「ふるさとを思う心」に関する道徳教育の実施を来年度はぜひやってほしい。	道徳教育推進教諭 人権・同和教育担当者 学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○校内生徒指導体制を整え、関係生徒及び保護者に計画的かつ組織的な関わりをもつ。 ○生活アンケートやいじめアンケートを毎月実施し、生徒現状把握し、早期発見・早期対応につなげる。 ○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上	○校内生徒指導体制を整え、関係生徒及び保護者に計画的かつ組織的な関わりをもつ。 ○生活アンケートやいじめアンケートを毎月実施し、生徒現状把握し、早期発見・早期対応につなげる。 ○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上	A	・月に一度の生活アンケートの実施し、小さな事案も細目に職員間で共通理解を行い、いじめの未然防止に努めている。 ・いじめ事案について、迅速に組織的に対応できている。 ・いじめ事案に対する職員の意識がしつかりしており、再発防止に努めることができる。	A	・評価の結果は、職員3.7、生徒3.5、保護者3.2、総合評価3.5で達成度はAであった。本校の取り組みに理解を示した。 ・問題行動やいじめ事案に対して、全職員で共通理解し対応することができた。	A	・先生方は生徒に寄り添い、休み時間等も含めて多くの時間を生徒とともに過ごしてあり、信頼関係も築けている。 ・いじめも初期の段階で対応してもらっているの、生徒も安心して学校生活を送れている。	生徒指導主事 各学年生徒指導担当者 学年主任
	◎生徒が夢や目標、志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ◎「将来の夢や目標、志をもっている」について肯定的な回答をした生徒(中学3年生)80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・マナー検定を実施し、夢や目標を持たせる。 ・外部機関と連携したキャリア教育を充実させ、将来の夢を持たせる。 ・将来の目標達成に向けて、SDGsの講演会の実施し、生徒が持続可能な社会の担い手となる方向性を示す。	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・マナー検定を実施し、夢や目標を持たせる。 ・外部機関と連携したキャリア教育を充実させ、将来の夢を持たせる。 ・将来の目標達成に向けて、SDGsの講演会の実施し、生徒が持続可能な社会の担い手となる方向性を示す。	B	・QUテスト(5月)の結果、「将来に夢や希望を持っている」は、12年生78%、3年生68%、「認めてくれる先生がいる」は、1年生67%、2年生64%、3年生70%が肯定的に回答した。 ・マナー検定で、夢や目標、実践を、全校生徒が校長に述べることでできた。優秀な生徒は、文化発表会で発表した。 ・川副町の自然や歴史や産業、防災や防災について調査や体験活動を通して将来の町づくりについての意識や行動が高まった。	A	・QUテスト(12月)の結果、「将来に夢や希望をもっている」は、1、3年生が73%、2年生が62%と、前回と同等の結果であった。 ・生徒主体のSDGsの活動と発表を3年間連続で行い、ふるさとへの実現のために意欲的な姿勢がよりみられるようになった。 ・100%の教師が自己肯定感や人権・同和教育の充実について、85%の保護者と子どもが希望をもち、また人の役に立っている回答。充実した心の教育を今後も継続していかなければならない。	A	・キャリアアッププログラムの発表等で、どの子も堂々と発表できており、素晴らしいと感じている。 ・全校集会の司会を全学年の生徒にさせる取り組みなどは素晴らしい。 ・将来の夢や希望等の項目は、平均より10%も高いのとても良いと思う。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒80%以上	・運動部活動や社会体育活動への加入奨励 ・体育的学校行事の推進 ・町の総合型地域スポーツクラブとの連携	B	・運動部活動や社会体育への加入率は、47%であった。 ・運動習慣の二極化、基礎体力の低下、運動部加入率の低下が課題である。 ・部活動では、平日1日、土日のいずれかの1日の休業日を設け活動を行った。 ・保健の授業などを通して、運動と健康の関係について周知した。 ・新体カテオの調査で、授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の生徒は80.6%であった。 ・保健便り等を活用し、規則正しい生活習慣の中で、朝食をとる重要性を知らせた。	A	・運動部活動や社会体育への加入率は、86.1%であった。また、部活動の休業日(平日、休日)はしっかり守られた。 ・運動習慣の二極化、基礎体力の低下、運動部加入率の低下が課題である。 ・学校行事は縮小されたが、内容は充実していた。 ・朝食、就寝時間、起床時間の調査結果から就寝時間が全体的に遅くなっていることが課題である。	A	・運動部の加入率は減少し、特に1年生は部活動にも社会体育にも所属していない生徒が多い。運動部に加入している生徒とそうでない生徒の運動習慣の二極化は危惧される。 ・健康に良い食事をしている項目については、生徒・保護者ともに高い評価であった。 ・中体連の社会体育参加、部活動の地域移行など過渡期にあたっていて、その動きを注視していきたい。	保健主事 養護教諭 食育推進担当 保健体育教諭 運動部活動担当
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に良い食事をしている生徒80%以上	○朝食をとって登校する生徒80%以上	○朝食をとって登校する生徒80%以上						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限を遵守する。	・出勤時刻の入り方による時間管理能力の向上 ・部活動に係る基本方針に沿った活動と休養日の設定 ・定時退勤日の設定、実行 ・放課後学習会の見直し ・管理職による退勤の呼びかけ	B	・上半期における職員の時間外勤務時間の平均は約39時間、昨年度を若干上回った。下期は改善を促したい。 ・方針に沿った部活動指導と休養日の設定はできた。 ・定時退勤日を毎週木曜日に設定したが、定時退勤できない職員がいた。下期は木曜日は時短ができるよう習慣づけを行った。	B	・評価の結果は2.5であった。昨年度より超過勤務の時間が若干増えた。 ・部活動にかかわる基本方針に沿った活動と休養の設定は100%達成できた。 ・全職員のひとりあたりの時間外勤務の平均平均は約36.7時間であった。 ・超過勤務の職員への呼びかけを行い意識を高めることができた。定時退勤推進日を中心に日々の時短が課題である。	B	・本年度においては、コロナ禍で行事削減されたものを少しずつ見直し活動した。結果としてその影響も職員員の勤務時間が若干増えることとなった。 ・超過勤務の職員への呼びかけを行い意識を高めること。定時退勤推進日を推奨し、週1回は必ず早く帰る日にすること。ICT等を活用して、仕事を効率化していくことを実践していきたい。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○魅力ある学校づくり	○教育相談の充実、居場所づくり、学習の場の保障	○自分には心の居場所があると感じる生徒の割合80%以上 ○自分にあった学習をすることができると思う生徒の割合80%以上	・教育相談期間を設定による教育相談活動の充実 ・SCや学習支援等との連携による個々の生徒に対する支援の充実や学びの場の提供 ・学校医、SSF等の関係機関との連携やSC・SSW等の専門人材を活用した不登校生徒の支援	B	・6月に教育相談期間を実施し、必要時SCにつないで個別支援を行うことができた。 ・SCから各学年に向けて講話を行い、相談場所のひとつとしてSCがあることを周知している。必要に応じて生徒を増やしている。 ・不登校生徒については、教育相談部会で情報共有を行い、SC・SSW・SSF等の専門人材と連携をはかり個別対応を行うことができた。	A	・自分には心の居場所があると感じる生徒の割合が90%を超え、相談しやすい環境づくりができた。 ・SCの講話をきっかけに新規で面談を希望する生徒が増えた。 ・校内での情報共有と外部機関の活用し生徒支援を行うことができた。	A	・学校に心の居場所があると回答した生徒の割合が90%を超えているといっているが、素晴らしいとの、継続してほしい。 ・学校の取組や姿勢が不登校減少につながっている。	教育相談担当 管理職
	○人間関係づくり コミュニケーション能力の育成	○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上 ○QUテストにおける学級満足度の割合60%以上	・全校一斉方式によるSSEやグループベンカウンター等の実施による学級活動の充実と望ましい人間関係づくりの育成 ・QUテストを活用した人間関係の構築及び学級集団のモラル向上の推進	A	・全校一斉方式によるSSEを6月と9月は予定通り行うことができた。日常生活の場面ににおけるやり取りを自分事として考えさせることができた。 ・1学期に1回目のQUテストを実施した。2学期に2回目を行う予定である。2回目までの結果を踏まえ、生徒指導部や校内研と連携し、学級経営や学年経営に生かしていきたい。	A	・全校一斉方式によるSSEを11月に予定通り行うことができた。年間計画通り3回実施した。 ・QUテスト(12月)の結果、学級満足度の割合が1年生60%、2年生63%、3年生66%と全学年が目標の60%には届くことができ、全学年が全国平均の41%を上回っている。	A	・QUテストの結果は高い。これは、クラスが楽しいということなので、今後も頑張ってください。 ・SSEを推進しており、コミュニケーション能力の向上が見られる。	特別活動担当 学年主任 学級担任
	○学校生活の向上(あいさつ・ルール・マナーに関する意識の向上) ○校内の環境整備・美化	○明るく元気なあいさつができる生徒90%以上 ○自問清掃検定の合格率80%以上	・生徒会や部活動による啓発活動や生活アンケートの実施等による生徒の意識向上 ・生活目標を活用した学級指導の充実 ・イレイや手洗いの清潔な環境維持についての指導の充実	B	・生徒会による「あいさつ運動」を毎朝校門で行うことができた。今後もあいさつができるよう今後も生徒会の委員会と連携し継続していく。 ・生活目標を毎月に学級や学年に提示することで、教師・生徒ともに目標を意識しながら生活できている。 ・環境維持の面では、全体として自問清掃により取り組んでいる。このまま継続して自問清掃に取り組み、各学年の自問集を通して生徒の環境に対する意識の向上を目指していきたい。	A	・評価の結果は、職員3.5、生徒3.1、保護者2.8、総合評価3.1で達成度はAであった。 ・生徒会によるあいさつ運動をはじめ、生徒会活動を通して意識向上を図った。 ・環境維持では、自問集会等で清掃に関する話を各学年ですること意識を高めた。その結果、清潔な学校環境づくりに努めることができた。	A	・あいさつ運動の時に、川副中の生徒はよくあいさつをしてくれる。 ・教育委員会等の来訪者も、掃除が大変上手だと評価してもらっている。学校は、多くの生徒が安心して生活できる環境にある。	生徒指導主事 各学年生徒指導担当者 部活動担当 生徒会担当
●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・ 次年度への展望	・校長のマネジメントのもと、各評価項目において成果が出ていると考えられる。学力向上(家庭学習の支援)以外の項目において、生徒・保護者・教職員のアンケート数値も高い。 ・学力向上においては、SDGsの研修を行い、どのように授業に取り込んでいくかを考え、研究授業を行った。また、総合的な学習の取り組みとして、県内の小中学校を招き、SDGsの公開発表を行った。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりへの意識を高めることができた。しかし家庭学習の充実、支援、習慣化が来年度も課題となった。基礎・基本の定着を行ってきたい。 ・生徒が夢や目標、志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動については、保護者と協力しながら次年度は進めていきたい。 ・アンケート全般から、生徒や保護者が、安心して学校生活を送ることができていると感じている。教職員が一丸となって、このことを継続していきたい。									